

プレマリン錠 0.625mg

【この薬は？】

販売名	プレマリン錠 0.625mg PREMARIN TABLETS 0.625mg
一般名	結合型エストロゲン Conjugated Estrogens
含有量 (1錠中)	0.625mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、「医薬品医療機器情報提供ホームページ」<http://www.info.pmda.go.jp/> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、結合型エストロゲン製剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、卵胞ホルモンを補充することによりホルモンバランスを整え卵胞ホルモンの働きが十分でない時におこる症状を改善します。
- ・次の病気の人に処方されます。
卵巣欠落症状、卵巣機能不全症、更年期障害、膣炎（老人、小児および非特異性）、機能性子宮出血
- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・エストロゲン依存性腫瘍（乳癌、子宮内膜癌）のある人またはその疑いのある人
- ・過去に乳癌と診断された人

- ・血栓性静脈炎の人、肺塞栓症の人、または過去にこれらの病気と診断された人
- ・動脈性の血栓塞栓疾患（冠動脈性心疾患、脳卒中）のある人、または過去にこれらの病気と診断された人
- ・過去にプレマリン錠に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人
- ・妊婦または妊娠している可能性がある人
- ・肝臓に重篤な障害のある人
- ・診断が確定していない異常性器出血のある人
- ・未治療の子宮内膜増殖症のある人

○次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

- ・肝臓に障害のある人
- ・子宮内膜症のある人
- ・子宮に筋腫のある人
- ・心臓や腎臓の病気のある人または過去に心臓や腎臓の病気と診断されたことがある人
- ・てんかんのある人
- ・糖尿病の人
- ・4週間以内に手術の予定がある人
- ・長期間寝たきりの人
- ・思春期前の人
- ・血縁に乳癌になった人がいる人
- ・乳房にしこりのある人、乳腺症のある人、乳房のレントゲン像に異常がみられた人
- ・全身性エリテマトーデスの人
- ・片頭痛のある人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

○この薬の使用前に乳房や婦人科の検査（子宮のある人では子宮内膜細胞診および超音波検診による子宮内膜厚の測定を含む）が行われます。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

〔卵巣欠落症状、卵巣機能不全症、更年期障害の目的で使用する場合〕

飲む回数	1日1回	1日2回
一回量	1錠または2錠	1錠

〔膣炎（老人、小児および非特異性）、機能性子宮出血の目的で使用する場合〕

飲む回数	1日1回	1日2回	1日3回
一回量	1～6錠	1～3錠	1～2錠

●どのように飲むか？

コップ1杯の水またはぬるま湯と一緒に飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・外国において、結合型エストロゲン（この薬の属するグループ）と黄体ホルモン剤を併用した場合、その期間が長くなるにしたがって乳癌になる危険性が高くなるとの報告があります。したがって、本剤を服用する場合には、その併用の必要性および注意すべき点について医師から十分に理解できるまで説明を受けてください。
- ・定期的に乳房や婦人科の検診（子宮のある人では子宮内膜細胞診および超音波検診による子宮内膜厚の測定を含む）が行われます。
- ・血栓症の初期症状（下肢のむくみ、足の激しい痛み、頭痛、胸の痛み、視力の低下、胸をしめつけられる感じ、はれ、吐き気、発熱、息切れ、激しい腹痛、知覚のまひ、意識の低下）や血栓症の危険性が高くなる状態（体を動かさない状態、あきらかな血圧上昇）があらわれることがあります。いくつかの症状が同じ時期にあらわれたら使用を中止し、ただちに受診してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？


特にご注意ください重大な副作用と、主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
血栓症 けっせんしょう	下肢のむくみ、足の激しい痛み、頭痛、胸の痛み、視力の低下、胸をしめつけられる感じ、はれ、吐き気、発熱、息切れ、激しい腹痛、
血栓塞栓症 けっせんそくせんしょう （四肢、肺、心、脳、網膜等） （しし、はい、しん、のう、もうまくとう）	下肢のむくみ、足の激しい痛み、頭痛、胸の痛み、視力の低下、胸をしめつけられる感じ、はれ、吐き気、発熱、息切れ、激しい腹痛、熱感、むくみ、汗をかく、意識の低下、失明、皮膚や唇、手足の爪が青紫色～暗紫色になる、嘔吐、咳、胸を強く押さえた感じ、腹がはる、知覚のまひ、局所の痛み、出血

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用の表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、熱感、むくみ、汗をかく
頭部	頭痛、意識の低下
眼	視力の低下、失明
口や喉	吐き気、唇が青紫色～暗紫色になる、嘔吐、咳
胸部	吐き気、息切れ、胸の痛み、胸をしめつけられる感じ、胸を強く押さえつけた感じ
腹部	吐き気、激しい腹痛、腹がはる
手・足	下肢のむくみ、足の激しい痛み、はれ、手足の爪が青紫色～暗紫色になる
皮膚	はれ、むくみ、皮膚が青紫色～暗紫色になる
その他	知覚のまひ、局所の痛み、出血

【この薬の形は？】

形状	だ円形の錠剤
	
直径	長辺 11.6mm、短辺 6.9mm
厚さ	4.0mm
重さ	270mg
色	白色
識別コード	0.625

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	結合型エストロゲン
添加物	乳糖水和物、第三リン酸カルシウム、メチルセルロース、ステアリン酸マグネシウム、白色セラック、マクロゴール 20000、グリセリン脂肪酸エステル、無水硫酸カルシウム、白糖、結晶セルロース、酸化チタン、カルナウバロウ

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

- 一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社

(<http://www.pfizer.co.jp/pfizer/>)

製品情報センター

学術情報ダイヤル：0120-664-467

FAX：03-3379-3053

受付時間：月～金 9時～17時30分

(祝日、当社休日を除く)